

## 二氧化硫黄の測定結果（平成19年度）

大気中の二氧化硫黄は、大気汚染物質の中でも代表的な物質であります。主として重油等石油系燃料に含まれる硫黄分の燃焼により発生するもので、その主な発生源は、工場・事業場のばい煙発生施設です。

平成19年度に、二氧化硫黄について17測定局で測定した結果は下表のとおりであり、これらを平成18年度と比較すると、横ばいの傾向にあります。年平均値は、中津川測定局の0.009ppmが最も高い状況にありました。

なお、短期的評価、長期的評価に基づく環境基準は、すべての測定局で達成しました。

地域	測定局名	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	年平均値 (ppm)	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値 (ppm)	日平均値の2%除外値 (ppm)	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	長期的評価の適否 適○否×	平成18年度	
					時間	%	日	%					年平均値 (ppm)	長期的評価の適否
岐阜	岐阜中央	365	8,685	0.001	0	0.0	0	0.0	0.028	0.005	無	○	0.002	○
	岐阜南部	365	8,691	0.002	0	0.0	0	0.0	0.029	0.005	無	○	0.004	○
	岐阜北部	360	8,620	0.001	0	0.0	0	0.0	0.027	0.006	無	○	0.005	○
	各務原	366	8,754	0.005	0	0.0	0	0.0	0.046	0.010	無	○	0.006	○
	平均			0.002									0.004	
西濃・羽島	羽島	366	8,764	0.006	0	0.0	0	0.0	0.035	0.011	無	○	0.007	○
	大垣中央	365	8,748	0.007	0	0.0	0	0.0	0.032	0.011	無	○	0.007	○
	大垣南部	366	8,754	0.007	0	0.0	0	0.0	0.050	0.016	無	○	0.006	○
	大垣西部	349	8,447	0.005	0	0.0	0	0.0	0.034	0.010	無	○	0.004	—
	平均			0.006									0.006	
可茂	美濃加茂	366	8,757	0.004	0	0.0	0	0.0	0.030	0.007	無	○	0.006	○
東濃西部	笠原	366	8,764	0.005	0	0.0	0	0.0	0.030	0.008	無	○	0.007	○
	土岐	330	8,281	0.004	0	0.0	0	0.0	0.025	0.008	無	○	0.004	○
	瑞浪	366	8,748	0.005	0	0.0	0	0.0	0.021	0.008	無	○	0.005	○
	平均			0.005									0.005	
恵那・中津川	中津川	362	8,713	0.009	1	0.0	0	0.0	0.107	0.021	無	○	0.009	○
	中津川柳	328	8,307	0.005	1	0.0	0	0.0	0.101	0.013	無	○	0.007	○
	中津川上金	366	8,745	0.005	0	0.0	0	0.0	0.028	0.010	無	○	0.006	○
	平均			0.006									0.007	
飛騨	高山	362	8,704	0.003	0	0.0	0	0.0	0.013	0.006	無	○	0.004	○
乗鞍	乗鞍	364	8,704	0.000	0	0.0	0	0.0	0.010	0.003	無	非適用	0.000	非適用
県平均				0.005									0.006	

備考) 1 県地球環境課調べ

2 環境基準の長期的評価に適合しているとは、測定時間が年間6,000時間以上あり、日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続せず、かつ、日平均値が0.04ppmを超えた日数が年間を通じて2%以下であることを示す。

3 県平均に、乗鞍測定局は含まない。

4 「長期的評価の適否」の欄の「—」は、年間の測定時間が6,000時間に満たないことを示す。